

てん菜に対するMH-30の散布が根重及び根中糖分に及ぼす影響

第5報 秋播きてん菜に対するMH-30の散布とビタミンB₁.

および消石灰の併用が糖度ならびに収量に及ぼす影響

末沢一男・多田正敏・安部秀雄・村井修・山本保

てん菜に対してMH-30を散布し抽苔を抑制する場合、ビタミンB₁および消石灰の併用が生育ならびに収量に及ぼす影響を知るため、MH-30を4月10日に散布し、同時にビタミンB₁を茎葉に、消石灰を地表面に散布した。又4月20日および4月30日にも夫々MH-30を散布し散布時期による収量の相違を検討した。

1. 抽苔長

(イ)MH-30の散布により花茎はいちじるしく抑制する。即ち4月10日にMH-30を散布した場合無処理に比べて抽苔長は1/4であった。

(ロ) ビタミンB₁、および消石灰の効果は大して認められなかった。

(ハ) ビタミンB₁とMH-30を併用した区が最も抽苔長は小さかった。

2. 糖度

MH-30の単独散布区が最も高く、ビタミンB₁、消石灰の併用区はそれより幾分低かった。

3. 根重

MH-30とビタミンB₁の併用区が最も高く消石灰の影響はみられなかった。

4. 可製糖量

MH-30(4月20日散布区)およびMH-30とビタミンB₁併用区(4月10日散布)が最も高く標準に比べて52%の増収を示した。

5. MH-30の抽苔抑制効果は散布後20日頃に最高に達し40日後には殆んど消失する。